

大城永光織物工房

1 かすり工房



分業体制が確立している南風原町ではめずらしく、染め・織り・洗濯までの一貫した工程をこなしている工房。若い職人たちが注文に応じて手作業で多彩な製品を生産しています。

敷地内に、糸干し場、洗濯場が配置され、適度な光と風が吹き抜ける工房です。

琉球楽器の桃原工房

三線



独特の共鳴装置を持つ伝統的盛嶋開鐘型サンシンの胴部分を現代的に改良した手作り生産で、県内サンシン製造者へ供給しています。

盛嶋型は優雅な形状と音色を持ち、多くの琉球音楽愛好家の支持を得ています。

水タンクのある民家

2



1950年代に建てられた戦後文化を忠実に伝えている民家。県民文化遺産にしたいほど貴重な建築物。セメント瓦屋根にかかる桶は、老朽化したため、プラスティック製に取りかえられたが、家屋も水タンクも建築当時のままで。

船越家(赤瓦家)

4



純琉球建築の赤瓦屋根の家。釘は使用してありません。

発行 / 特定非営利活動法人 南風原平和ガイドの会

住所 / 〒901-1113 沖縄県島尻郡南風原町字喜屋武257

南風原町立 南風原文化センター内

電話 / 098-889-2533

平成23年度沖縄県雇用再生特別事業「シマじまガイド事業」

獅子とヌン殿内が護る
癒しの里

照屋 を歩く



特定非営利活動法人 南風原平和ガイドの会

照屋の今昔

照屋集落はデームイモーの南斜面に展開しており、この一帯は、ヌンドゥヌチや旧家等があり、集落の草分けにかかる古い集落である。集落前方の現在の公民館の敷地は、ナガモと呼ばれ、かつてはアシビナーでもあり、綱引きや芸能や相撲をしたり、若者たちが力石で力比べ等をした所である。また、各組の製糖工場もあった。主な産業は、農産物であるが、副業として琉球紺(照屋ハ枚も考案された)の生産をしており、過去においては布団皮の生産も行われていた。また、三線の胴部分作り(盛嶋型)の唯一の产地でもある。

照屋データ

○人口……………男 724人
……………女 733人
合計 1,457人

○世帯数……………487世帯

○面積……………36.3ヘクタール
(平成22年1月現在)

照屋 MAP





1

戦前の照屋の地図

(「60年前の南風原」南風原町史編集委員会
1994年(平成6年)発行)

テルヤヌンドゥスチ 照屋ノロ殿内

照屋を守護している神々が祀られている
清涼な所。昭和55年木造からコンクリート
造りに改築しました。



2

照屋ノロ殿内



アガリ

東のシーサー

シーサーは、ムラの入口にフーチゲー（邪気返し）の目的で設置されています。

となりの字本部が火の山と恐れられていた八重瀬岳へ向けてシーサーを設置し、それが結果的に照屋に向く形になり、照屋集落は対抗して本部に向けて置いたと言われています。
[町有形民俗文化財]

モー デームイ毛とシーサー

むかしむかし、琉球の戦国時代にノロシ（狼煙）台や見張り台として使用されていたと思われるものがデームイです。

小高い丘の頂上にはシーサーとウタキがあり、今でも信仰の場所として人々が訪れています。

シーサーはデームイ毛の北西側にありましたが、学校の建設のため現在地に移されました。東のシーサーより、こぶりで穏やかな顔をしています。[町有形民俗文化財]



ユンヌカー

照屋には井戸が少なく、その中でユンヌカーは水量が豊富で、正月の若水はここから汲まれました。



イシジャーヌシー

アヒタシイ
安平田子が首里王府に攻められ傷つき、この場所まで逃げてきたが逃げ切れずに岩と岩の間で息絶えたと言われています。この場所を津嘉山集落ではチマダヌシー、照屋集落ではイシジャヌシーと呼んでおり、現在も子孫がお祀りをしています。



イシジャーガー

集落の斜面に人家が増え、大正時代の旱魃時に石ころばかりの原に井戸を掘り飲料水を確保しましたが、近年のアパート建設時に埋められました。井戸の跡にはウコール（香炉）を置き水神への感謝を捧げています。

トウンヌシチャ

公民館の裏にあるトウンヌシチャ（殿の下）は、首里王府に亡ほされた安平田子の次女真姫が、浦添から仲間大主を婿養子に迎て、結婚後に住んでいた住居跡です。



5



4